

# 必修の基本的事項

## 必修の基本的事項

大項目	中項目	小項目	
1 患者の人権、医の倫理  約2%	A 医の倫理、生命倫理	a 患者の人権と医療	
		b ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、ヒポクラテスの誓い	
		c 守秘義務、プライバシーの尊重、法の遵守	
	B 歯科医師と患者・家族との関係	a 患者中心の歯科医療、インフォームドコンセント	
		b 患者の権利と義務	
		c 自己決定権	
2 社会と歯科医療  約2%	A 患者・障害者のもつ心理・社会的問題	a 疾病・障害の概念・構造〈社会的かかわり〉	
		b QOL 〈quality of life〉	
		c リハビリテーションの概念	
		d ノーマライゼーション、バリアフリー	
		e 患者・障害者の心理	
	B 歯科医師の心理・社会的側面	a 診療に臨む姿勢・意識	
		b 歯科医師の社会的役割	
		c 患者・障害者に対する態度	
		d 心理・行動の要因分析	
	C 歯科医療の社会的背景	a 健康意識・疾病構造	
	D 保健・医療・福祉の制度	a 歯科医師法	
		b 歯科衛生士法	
		c 歯科技工士法	
		d 薬事法	
		e 医療法	
		f 保健・医療・福祉・介護の各職種	
		g 地域歯科保健活動での各職種の連携	
	E 臨床試験・治験と倫理	a GCP 〈good clinical practice〉	
	3 予防と健康管理・増進  約4%	A 健康増進と疾病予防	a 概念
			b プライマリーヘルスケア、アルマ・アタ宣言
			c ヘルスプロモーション、オタワ憲章
			d 健康日本21
			e メタボリックシンドローム
f 根拠に基づく齲蝕・歯周病の予防法の評価レベル・推奨度			
g 行動レベル、行動変容			
B 地域保健		a 地域保健法、地域保健体制	
		b 健康増進法、健康増進計画	

大項目	中項目	小項目
		c 8020 運動
		d 健康危機管理
	C 母子保健	a 歯科健康診査〈妊産婦、1歳6か月児、3歳児〉
	D 学校保健	a 保健教育・保健管理の概要
	E 産業保健	a 労働者の健康管理、トータルヘルスプロモーションプラン〈THP〉
	F 成人保健	a 健康増進事業、成人の健康管理
	G 老人保健・介護保険	a 高齢者の医療の確保に関する法律
		b 介護予防
		c 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、居宅サービス
	H フッ化物応用	a 全身的応用
		b 局所的応用
		c 安全性
	I 生活習慣と口腔の健康	a 栄養と食生活
		b 喫煙、飲酒
		c ストレス
		d 生活習慣病
	J 口腔清掃	a プラークの機械的・化学的除去
		b プラーク形成・付着抑制
		c 口腔清掃行動
d 口腔ケア		
4 歯科医療の質と安全の確保 約6%	A 医療の質の確保	a 患者満足度
		b 患者説明文書
		c 診療録開示
		d セカンドオピニオン
	B 医療事故の防止	a 医療過誤、医療事故
		b 医療事故の発生要因
		c 患者の安全〈誤飲、誤嚥、吸引、誤薬、出血、外傷、感染、電撃、被曝、目の保護〉
		d 医療者の安全〈感染、針刺し事故、外傷、被曝、目の保護〉
		e 医療危機管理〈リスクマネジメント〉
		f ヒヤリハット、アクシデント
		g 医療安全対策〈医薬品・医療機器の安全管理〉
	C 院内感染対策	a スタンダードプレコーション
		b 手洗いの励行、適切な滅菌・消毒、バリアの使用
		c 抗菌薬の適正使用
		d 医療廃棄物処理

大項目	中項目	小項目
	D 医療裁判	a 医事紛争、賠償 b 医療訴訟〈刑事裁判、民事裁判〉
	E 医薬品・医療機器による健康被害	a 副作用・有害事象への対応〈報告義務、治療、補償〉
	F 血液・血液製剤の安全性	a 使用記録保管義務
5 診療記録・診療情報 約2%	A 診療録、医療記録	a 診療に関する記録〈診療録、同意書、処方せん、検査所見記録、画像記録、手術記録、入院診療計画書、退院時要約、技工指示書、模型〉 b 診療録の管理・保存
	B 診療情報	a 個人情報の保護 b 診療情報の開示
	C 診断書	a 診断書、死亡診断書
6 人体の正常構造・機能 約12%	A 全身の構造・機能	a 遺伝子、染色体 b 細胞・細胞内小器官の名称・機能 c 組織〈上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織〉 d 生体構成成分の名称・機能 e 特殊な支持組織〈骨、軟骨、血液〉 f 器官系〈筋・骨格系、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器・生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系、血液・造血器系、免疫系〉
	B 口腔・顎・顔面の構造・機能	a 口腔の構造〈口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口底、唾液腺、頬、口唇、口峽、歯列〉 b 口腔の機能〈咬合、咀嚼、嚥下、呼吸、発音、消化、味覚〉 c 唾液腺・唾液の種類 d 頭蓋・顎・顔面の筋〈表情筋・咀嚼筋の種類〉 e 頭蓋・顎・顔面を構成する骨 f 頭頸部の神経〈三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経〉舌下神経、 g 頭頸部の動脈〈顎動脈、顔面動脈、舌動脈、外頸動脈〉 h 顎関節の構成〈下顎頭、下顎窩、関節円板、関節包、関節結節、靭帯〉
	C 歯・歯周組織の構造・組成・機能	a 歯の形態〈歯種の鑑別〉 b 歯式 c 歯の構造・組成 d 歯周組織の構造・組成 e 歯髄の感覚 f 歯根膜の感覚

大項目	中項目	小項目	
	D 口腔の生態系	g 歯・歯周組織が受ける力	
		a 常在微生物叢の構成	
		b 食品の影響	
		c 唾液の作用	
		d 歯質の脱灰と再石灰化	
7 人体の発生・成長・発達・加齢 約12%	A 人体の成長発育	a 発育区分〈出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期〉	
		b 発育期の特徴	
		c 成長発育、生理的年齢	
	B 歯・口腔・顎・顔面の成長発育	a 歯・歯列の成長発育〈萌出時期・順序、歯の脱落・交換時期、歯齢〉	
		b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴	
	C 加齢による歯・口腔・顎・顔面の変化	a 歯の変化	
		b 歯髄の変化	
		c 歯周組織の変化	
		d 顎骨・顎堤の変化	
		e 顔面の変化	
		f 歯列・咬合の変化	
		g 顎関節の変化	
		h 筋の変化	
		i 神経系の変化	
		j 口腔粘膜の変化	
	k 唾液腺の変化		
	D 歯の喪失に伴う変化	a 形態的变化	
		b 機能的変化	
	8 医療面接 約4%	A 意義・目的	a 医療情報の収集・提供
			b 患者歯科医師関係の確立
c 患者への指導、動機づけ、治療への参加			
B 面接のマナー		a 身だしなみ	
		b 挨拶、態度	
		c 会話のマナー、言葉遣い	
		d コミュニケーションの進め方〈質問法、傾聴の仕方、非言語的コミュニケーション〉	
		e プライバシーの保護	
		f 感情面への対応	
C 病歴聴取		a 主訴	
		b 現病歴	
		c 既往歴	
		d 家族歴	
		e 患者背景〈生活・社会歴〉	

大項目	中項目	小項目
		f 患者・家族の考え方・希望
9 主要な症候 約9%	A 全身の症候	a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害
	B 歯・口腔・顎・顔面の症候のとらえ方	a 口腔・顎・顔面の一般的症候〈疼痛、腫脹、腫瘍、色調の変化、熱感、出血、瘻、硬度の異常、触感の異常、機能障害〉
		b 歯の症候〈齶蝕、硬組織欠損〉
		c 歯髄の症候〈自発痛、誘発痛〉
		d 歯周組織の症候
		e 歯列・咬合の症候
		f 口腔粘膜の症候
		g 顎骨の症候〈形態の異常〉
		h 顎関節の症候〈関節痛、関節雑音、運動障害〉
		i 筋の症候
		j リンパ節の症候
		k 唾液腺の症候
	C 全身疾患による主な口腔症状	a 貧血による舌炎
		b 出血性素因による歯肉出血・抜歯後出血
		c 急性白血病による歯肉出血・腫脹
		d 後天性免疫不全症候群〈AIDS〉によるカンジダ症・歯周疾患
		e ウイルスによるアフタ性潰瘍
		f 結核・梅毒による粘膜潰瘍
		g 金属によるアレルギー性変化〈苔癬様病変〉
		h 糖尿病による口腔乾燥・歯周疾患の増悪
		i ビタミンC欠乏による歯肉出血
		j 薬物の副作用による多形滲出性紅斑・歯肉の肥厚・歯の着色・唾液分泌量の減少・味覚の異常
		k 脳血管疾患による咀嚼障害、摂食・嚥下障害
10 診察の基本 約4%	A 診察のあり方	a 診察室環境への配慮
		b プライバシー・羞恥心・苦痛への配慮
		c 自己紹介、患者の確認
		d 患者への説明
		e 患者への声かけ・例示
	B 基本手技	a 視診
		b 触診
		c 打診

大項目	中項目	小項目	
		d 聴診	
	C 診察時の体位	a 患者の体位 b 術者の姿勢	
	D 口腔診察用器材		
	E 全身の診察	a 全身の外観〈体型、栄養、姿勢、歩行、発声〉 b 精神状態、意識状態 c バイタルサイン〈体温、呼吸、脈拍、血圧〉	
	F 口腔・顎・顔面の診察	a 顔貌の対称性、顔色、皮膚 b 口腔粘膜 c 所属リンパ節 d 唾液腺 e 下顎運動	
	G 歯列・咬合状態の診察	a 歯列の形態・大きさ b 前歯部の被蓋 c 臼歯部の咬合状態	
	H 歯・歯周組織の診察	a 動揺度検査 b 温度診 c 歯髄電気診〈電気歯髄診断〉 d 歯肉の症状 e 歯周ポケット f アタッチメントレベル g プラーク〈バイオフィルム〉、歯石	
	I 心理・社会的側面についての配慮	a 患者の心理・社会的側面 b 家族機能	
	11 検査の基本 約 10%	A 意義、目標	a 診断 b 治療経過の評価 c 医療情報の収集
		B 検査の倫理と安全	a 患者・検体の確認
		C 検体検査の種類	a 一般臨床検査〈尿、赤沈、穿刺液、関節液〉 b 血球検査、凝固・線溶・血小板機能検査、血液型・輸血関連検査 c 生化学検査〈糖質・糖、代謝関連物質、タンパク、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン〉 d 免疫学検査〈抗体、補体〉 e 微生物学検査
		D 歯・歯周組織・口腔の検査	a 歯の検査〈硬組織〉 b 歯周組織の検査 c 顎関節の検査

大項目	中項目	小項目
		d 筋の検査
	E 画像検査	a エックス線画像検査〈口内法、パノラマ、CT、造影〉
	F 病理組織学検査	a 細胞診
		b 組織診
	G 結果の解釈	a 病歴との関連
		b 症候との関連
12 臨床判断の基本 約2%	A 根拠に基づいた医療 〈EBM〉	a 意義
		b クリニカルパス
		c 齶蝕予防法の評価
		d 歯周疾患予防法の評価
	B 臨床疫学的判断	a 意義と目的
	C 基準値	a 基準範囲の概念
		b 生理的変動
		c 性差、年齢差
	D 有効性、効率性	a 効率とリスク
		b 費用対効果
13 初期救急 約1%	A 救急患者の診察	a 全身偶発症の原因
		b バイタルサインの把握
		c 意識障害の評価
		d 病態・疾患の鑑別
		e 重要臓器の機能状態の把握
	B 救急処置	a 一次救命処置〈BLS〉、気道確保、人工呼吸、心(臓)マッサージ、除細動、静脈路確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血
		b 救急処置を要する症状〈失神、意識障害、ショック、けいれん、呼吸困難、激しい胸痛、嘔吐、誤飲と誤嚥〉
14 主要な疾患の病因・病態 約12%	A 疾病の概念	a 健康・疾病の概念
		b 先天異常、発育異常
		c 損傷
		d 炎症
		e 感染症
		f 嚢胞
		g 腫瘍
		h 循環障害
		i 機能障害
		j 物質代謝異常
		k 細胞・組織の傷害

大項目	中項目	小項目
	B 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念	l 病的増殖
		m 放射線の影響
		a 齶蝕と継発症
		b 歯周疾患
		c 歯列・咬合の異常
		d 咬合・咀嚼障害
		e 免疫異常
		f 先天異常、発育異常
		g 損傷
		h 炎症性疾患
		i 嚢胞
		j 腫瘍、腫瘍類似疾患
		k 顎関節疾患
		l 口腔粘膜疾患
		m 唾液腺疾患
		n 口腔に症状を現す血液疾患・出血性素因
		o 神経疾患、心因性病態
15 治療の基礎・基本手技  約 12%	A 意義・目標	a 疾患の治療、自然治癒
	B 種類・特性	a 原因療法、対症療法
		b 保存療法、根治療法
	C 治療の適応・選択	a 適応
		b 禁忌
	D 治療の場	a 外来
		b 入院
		c 在宅
		d 地域
		e 隔離
	E 使用器材、取扱法	a 基本的器材
	F 乳幼児・高齢者・妊産婦・障害者・要介護者の治療	a 治療環境
		b 患者の体位
		c コミュニケーション
		d チーム医療
	G 器械の安全な取扱法	a 歯科用ユニット
		b エックス線撮影装置
c レーザー装置		
H 消毒・滅菌と感染対策	a 消毒・滅菌法	
	b 手術野の防湿・消毒	
I 注射法の種類	a 皮内	
	b 皮下	

大項目	中項目	小項目
		c 筋肉
		d 静脈
	J 麻酔法	a 局所麻酔〈局所麻酔法、局所麻酔薬、血管収縮薬、合併症・偶発症〉
		b 全身麻酔〈吸入麻酔法、静脈麻酔法〉
		c 精神鎮静法〈吸入鎮静法、静脈内鎮静法〉
	K 創傷の処置	a 洗浄、消毒
		b 止血
		c 縫合
	L 膿瘍の処置	a 穿刺、切開、ドレナージ
	M 抜歯	a 基本的術式
	N 歯の切削	a 基本的術式
	O 齲蝕の治療	a 基本的術式
	P 歯髄疾患の治療	a 基本的術式
	Q 感染根管の治療	a 基本的術式
	R 歯周疾患の治療	a 基本的術式
	S 歯質・歯の欠損による障害の治療	a 基本的術式
	T 歯列・咬合異常の治療	a 基本的術式
	U 印象採得	a 基本的術式
	V 顎間関係の記録	a 基本的術式
	W 咬合器	a 種類
	X 歯科鑄造	a 鑄造法の基本的術式
	Y 合着・接着法	a 基本的術式
	Z 薬物療法	a 薬物の適用方法
		b 薬物の代謝・排泄
		c 薬物の効果に影響する因子〈年齢、個人差、種差、性差、プラセボ効果〉
		d 薬物の作用部位〈受容体、非受容体〉
		e 薬物の反復投与
		f 用量、LD <sub>50</sub> 、ED <sub>50</sub> 、治療係数〈安全域〉
		g 薬物の併用〈協力作用、拮抗作用〉
		h 薬物の副作用・有害作用〈アナフィラキシーショック、薬疹、血液障害、消化器障害、肝障害、腎障害、気管支喘息、中枢神経障害〉
		i 薬物投与上の注意〈禁忌、小児、妊婦、高齢者〉
	AA 口腔機能のリハビリテーション	a 機能の回復〈咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能〉
		b 口腔機能管理

大項目	中項目	小項目
		c コミュニケーションと社会参加
	AB 患者管理の基本	a 口腔環境の評価〈口腔清掃状態、補綴装置の清掃状態、残存歯の状態、口腔粘膜の状態〉 b 全身管理に留意すべき疾患・対象〈気管支炎、気管支喘息、肺炎、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand 病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群、認知症、統合失調症、うつ病、てんかん、Alzheimer 病、Parkinson 病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、妊婦、乳幼児、小児、高齢者、免疫不全〉
	AC 歯科材料	a 印象材 b 模型材 c 修復用材料 d 合着・接着材 e 義歯用材料 f 予防填塞材 g 切削・研削・研磨用材料
16 チーム歯科医療 約2%	A 医療機関でのチームワーク	a 歯科医師・医師間 b 歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士間 c 多職種間
	B 地域医療でのチームワーク	a 病診連携 b 診診連携 c 保健・医療・福祉・介護・教育の連携 d 家族との連携 e 地域連携クリニカルパス
	C チームワーク形成	a リーダーシップ b チームの調整技能
	D コンサルテーション	a 自己責任と自分の限界
	E 社会生活	a 社会復帰 b 社会保障制度〈所得、介護、障害〉 c 人的支援 d 物的支援〈福祉用具〉 e 自立

大項目	中項目	小項目
17 一般教養的事項 約4%	A 医学史、歯科医学史	
	B 医学・医療に関する 人文、社会科学、自然 科学、芸術などに 関連する一般教養的 知識や考え方	
	C 診療に必要な基本的 医学英語	